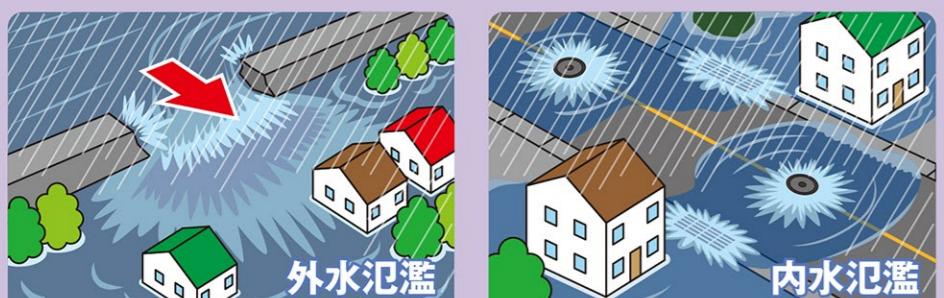


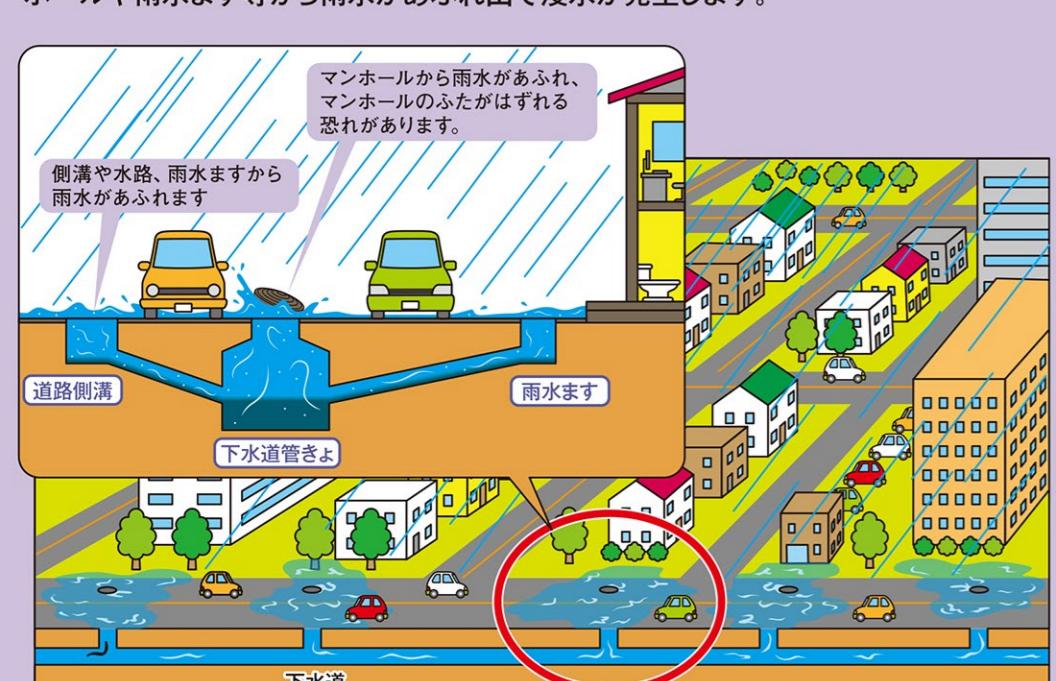
内水氾濫、外水氾濫とは

浸水被害には、川の堤防が壊れたり堤防から水があふれたりして発生する氾濫(外水氾濫)と、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起る氾濫(内水氾濫)があります。



内水氾濫が発生する理由

街に降った雨は、下水道管や水路、道路側溝などを流れ河川に排水されます。下水道などの排水能力を超える雨が降った場合、河川への排水が追いつかず、マンホールや雨水ます等から雨水があふれ出で浸水が発生します。



雨の強さと降り方(1時間雨量)

やや強い雨

- 地面一面に水たまりができる、話し声が聞き取りにくくなります。
- 長雨になりそうなら警戒が必要です。



10~20mm未満

強い雨

- どしゃ降りの雨。傘をさしても漏れてしまうほど雨です。
- 発表されている気象情報に注意してください。



20~30mm未満

激しい雨

- バケツをひっくり返したようになる雨。
- 水害や土砂災害の危険が高まります。避難の準備を。



30~50mm未満

非常に激しい雨

- 滝のように降る雨。
- 屋内に寝ている人の半数くらいが気づくほど激しい雨です。
- やむを得ない場合以外、屋外に出ることは控えましょう。



50~80mm未満

猛烈な雨

- 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。
- 大雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。



80mm以上

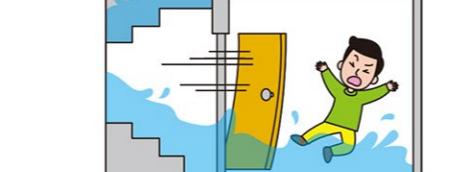
避難のポイント

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性がある場合には、気象情報など参考にして、早めの避難を心がけましょう。

●地下部分は浸水する危険性が高いので、雨が強くなってきたら早めに地上階へ移動してください。



●動きやすいうちに避難しましょう
両手を自由に使えるようにして、長靴より、脱げにくく運動靴を履き、安全に避難しましょう。



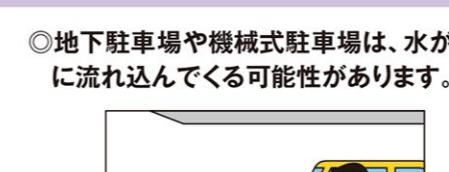
●非常持ち出し品は最小限に
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしよう。



●住所、氏名、連絡先などを記載した
防災メモを持とう
特に高齢者や子どもは、事前に防災メモを用意し、身につけて避難しましょう。



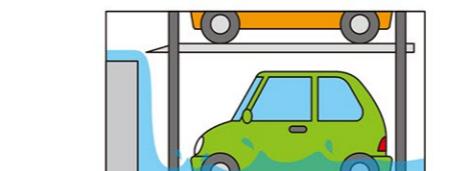
●安全な避難経路の確認をしましょう
●避難場所等までの経路は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。



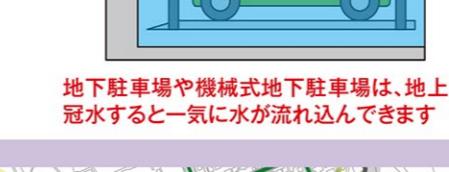
●川べりや橋、ため池の近く、土砂災害の恐れがある区域は大変にとって災害が発生する危険があります。



●それを避け、できるだけ迂回して広い道を選びましょう。



●集団で助け合おう
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



●車での避難は控えてください
車は約30cmの浸水で走行困難になります。水害発生時は車での避難は控えましょう。



地下駐車場や機械式駐車場は、水が一気に流れ込んでくる可能性があります。



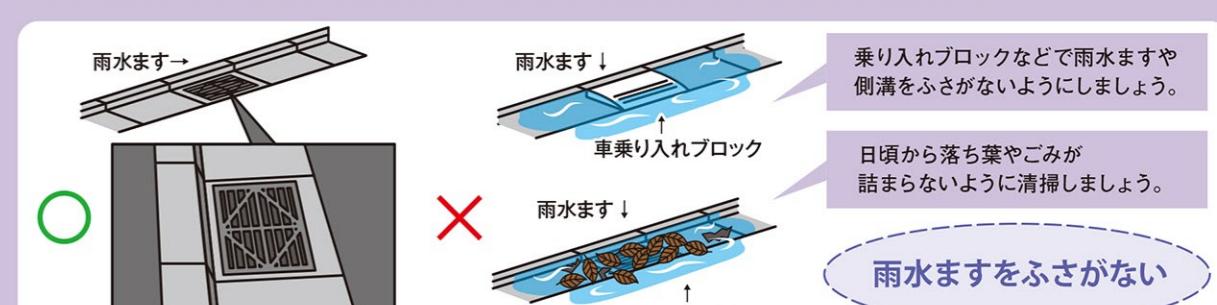
地下駐車場や機械式地下駐車場は、地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。

日頃の備え

●側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。

●吸い込み口が落ち葉やごみで詰まる、マップで浸水が想定されない区域でも浸水することがあります。

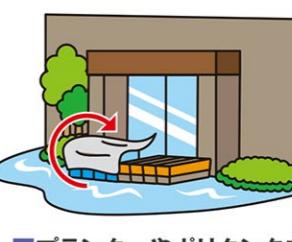
●下水道へ接続していないお宅の場合、大雨によって側溝等がいっぱいになっている時は、お風呂の水などを流すのは控えましょう。



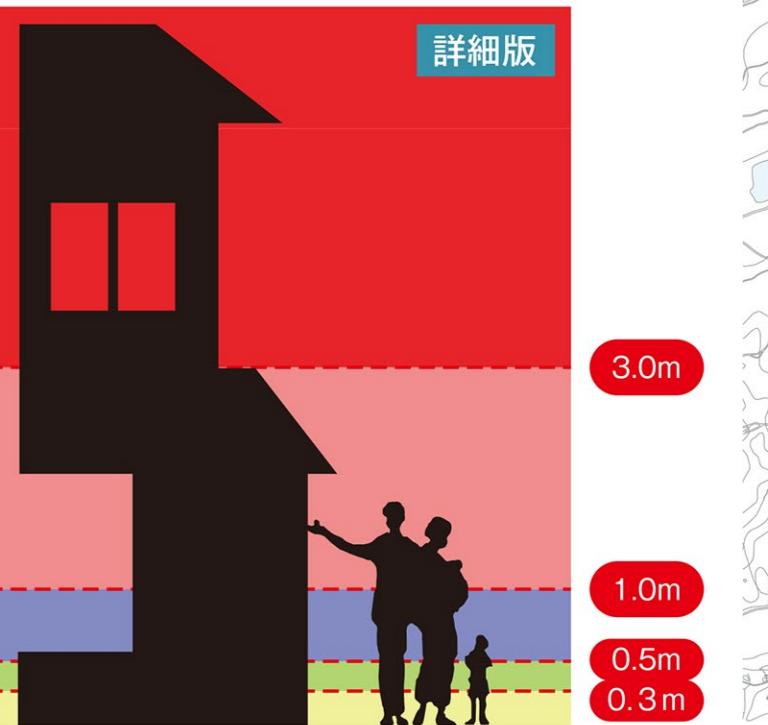
大雨のときの浸水防止対策

●家にあるもので浸水を防ぎましょう。

土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用した水のうなどを使いましょう。



浸水深
Estimated inundation depth
積水深度標準　積水　高さの　大体的基準



和泉市南部

施設等

- 指定避難所
- 福祉避難所
- 警察署
- 消防署
- 緊急医療施設
- 市役所
- 防災備蓄倉庫
- 災害時用臨時ヘリポート
- 無線・サイン
- 水位観測所
- 雨量観測所
- 河川監視カメラ
- 危険箇所(アンダーパス)

*和泉市における水害想定区域
内の配慮する利用施設について
は、和泉市地域防災計画をご覧ください。

道路・鉄道等

●主要な道路

●鉄道

●河川

●池・水部

住民同士が協力して 地域の防災力を高めよう

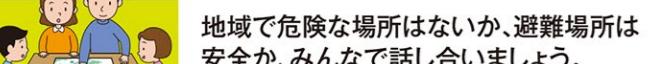
避難訓練へ参加したり、避難所生活を経験してみましょう。



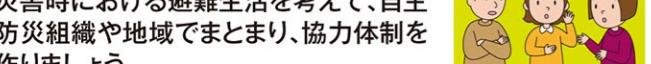
行政区、自治会で話し合い、自分たちでできることを決め、定期的な訓練などに参加しましょう。



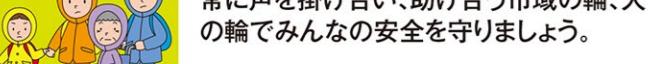
地域で危険な場所はないか、避難場所は安全か、みんなで話し合いましょう。



災害時における避難生活を考えて、自主防災組織で地域でまとまり、協力体制を作りましょう。



常に声を掛け合い、助け合う市域の輪、人の輪でみんなの安全を守りましょう。



地域ぐるみで支援しよう 避難行動要支援者

災害発生時に自ら避難することが困難で支援が必要な方(高齢者や障がい者等)を避難行動要支援者といいます。避難が必要な場合は、地域で協力しながら、近所の高齢者、障がいのある方などの安否確認、避難場所への移動を支援しましょう。

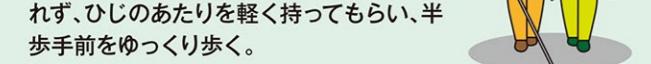
高齢者・病人

- お出でに安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



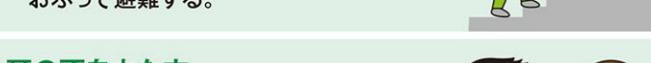
目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持つ方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもら、半歩手前をゆっくり歩く。



肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上必要、上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、お出でで避難する。



耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



指定避難所

災害によって短期間の避難所生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う施設

施設名

住所

電話番号

光明台南小学校

光明台交番

光明台南小学校

光明台中学校

光明台北小学校

光明台東小学校

光明台西小学校

光明台北中学校

光明台東中学校

光明台西中学校

光明台北小学校

光明台東小学校

光明台西小学校

光明台北中学校

光明台東中学校

光明台西中学校

光明台北小学校

光明台東小学校

光明台西小学校

光明台北中学校

光明台東中学校

光明台西中学校

光明台北小学校

光明台東小学校

光明台西小学校

光明台北中学校

光明台東中学校

光明台西中学校

光明台北小学校

光明台東小学校

光明台西小学校

光明台北中学校

光明台東中学校

光明台西中学校

光明台北小学校

光明台東小学校

光明台西小学校

光明台北中学校

光明台東中学校

光明台西中学校

光明台北小学校

光明台東小学校

光明台西小学校

光明台北中学校

光明台東中学校

光明台西中学校

光明台北小学校

光明台東小学校